INFORMATION

令和８年度下半期　スケジュール

カワニナ生息数調査

場所　北小木川・神明洞川　期日　11月13日（金）9：00～12：00 ※雨天の場合11月16日（月）9：00～12：00に延期

市天然記念物「北小木のホタル」調査の一環として、ホタルの幼虫の餌であるカワニナ（巻貝の一種）の生息数調査を北小木川と神明洞川で毎年行っています。ボランティアにご協力いただける方を募集しています。詳細はホームページをご確認ください。

北小木川の草刈

場所　北小木川　期日　11月15日（日）9：00～ ※雨天の場合11月22日（日）9：00～に延期

市天然記念物「北小木のホタル」の住みやすい環境作りのため、北小木川の草刈を実施します。
ボランティアにご協力いただける方を募集しています。詳細はホームページをご確認ください。

多治見市文化財保護センター　企画展 石造物展（仮）

期間　令和９年２月１日（月）～令和９年６日25日（金）
特別開館日　2月14日（土）、6月7日（日）

路傍に見られる石造物には人々の信仰と生活・文化の記録がきざまれています。さらに、石造物を形にした石工（いしく）にも注目し、使用された石材や加工技術、彫刻の特徴、銘などを手がかりに、石工の技術や活動、地域との関わりを探ります。
本展を通して、身近に残る石造物の価値を再発見するとともに、地域に残された文化を調査し、記録し、次の世代へ継承していくことの大切さを伝えます。

「戦争と美濃焼」開催中！



多治見市本町にある陶都創造館にて多治見市教育委員会所蔵資料による「戦争と美濃焼」を開催しています。ぜひお立ち寄りください。
期間　令和９年3月31日（火）まで
会場　陶都創造館3階　博物館「多治見商人物語」

information



ガチャ、はじめました！

アンケートにご記入いただいた方はガチャ１回チャレンジok！
多治見の文化財ステッカーは全部で9種類！お楽しみに！

自然と人の文化

No.68　2026年10月発行
編集・発行　多治見市文化財保護センター
発行部数：1,300部
この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。

Instagram　X　ホームページ　クラウド

アカウントは@tajimi_bunkazai

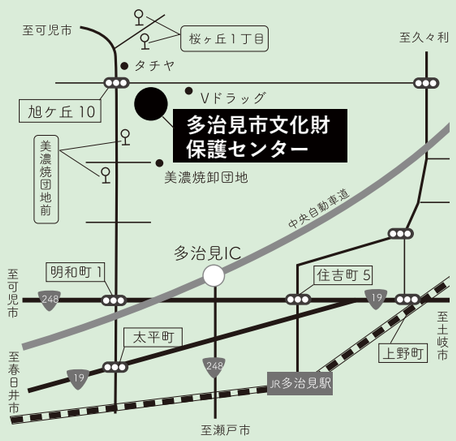
収蔵品の一部をクラウドで紹介しています！
ぜひアクセスしてみてください。

多治見市文化財保護センター

〒507-0071　岐阜県多治見市旭ケ丘10-6-26
TEL（0572）25-8633　FAX（0572）24-5033
E-mail　hogo-cen@city.tajimi.lg.jp

開館時間　9：00～17：00（最終入館16:30）
休館日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始
入館料　無料

ACCESS
自動車
多治見ICより車で約10分
電車・バス
JR多治見駅北口より東鉄バス（名鉄緑台線・桜ヶ丘ハイツ線または緑ヶ丘線）に乗車「桜ヶ丘１丁目」または「美濃焼団地前」下車・徒歩５分



FSC

自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより　No.68　2026.10

ワークショップ おさけのかおりとてざわり 開催レポート











令和８年８月22日に、企画展「酒を造る」の関連企画としてワークショップ「おさけのかおりとてざわり」を開催しました。ワークショップでは、講師に中島醸造㈱の中島修生さんをお招きし、お酒づくりの工程についてやお酒づくりに必要な感覚について、子供向けにわかりやすくお話いただきました。また、かおりを体験するプログラムでは、４種類の官能試薬を使用してワークシートに記入してもらいながらすすめました。お酒が木製の樽で輸送されていた時代のお話や、記憶や経験とかおりが結びつくお話など、大変興味深い内容でした。

また今回は岐阜県食品科学研究所の先生にご協力をいただき、酒米「酔むすび」を蒸して試食する体験を行いました。飯米としてご用意した「ハツシモ」との食べ比べをおこない、酒米と飯米の違いを味覚と触覚で体験していただきました。90%精米の酒米は大変好評で味覚の記憶に残る貴重な時間となりました。

企画展「酒を造る」

多治見周辺エリアで、江戸時代から現代までつづく酒造について、酒蔵・杜氏への取材・聞き取りと酒造関連の文書資料を中心に紹介する企画展。職人の出稼ぎ雇用や酒蔵の風習・信仰、職人たちが発する酒造にまつわる言語など民俗文化としての酒造りをクローズアップするほか、木製桶等の伝統的酒造に関連する文書資料・道具を展示。酒造技術と工程、発酵の美しさを紹介します。また、当地域の酒にまつわる造形から、酒の文化を探ります。
| 会期 | 12.18（金）まで
| 特別開館日 |　11.3（火）・12.6（日）

{主催} 多治見市教育委員会　{共催} 東美濃酔むすび研究会　岐阜県酒造組合　多治見酒造組合　中津川酒造組合
{後援} 名古屋国税局

多治見市有形文化財に指定されました

長福寺所蔵「銅造双身毘沙門天立像」





1躯　銅鋳製　像高 9.9 ㎝　平安時代末から鎌倉時代（12 世紀から 13 世紀）　長福寺所蔵

本像は２体の毘沙門天が背中合わせに立つ特異な図像を有する仏像で、こういった「双身」の毘沙門天像は天台密教の聖教である『阿娑縛抄』に収録されていることで知られています。１体は手を胸前で合掌させており手先には金輪（輪宝）を、反対側の像は手を下向きに合掌させており手先には独鈷杵を執っていたことがわかりますが、いずれも失われています。また、２体の像のそれぞれの口辺には小さな孔があり、ここには反対側の像につなげていた針金状の「白牙」が挿し入れられていたと考えられます。

像の下半部に縦に鋳型のバリ跡が見られることから、おそらく３つの割型（土型）による鋳造と考えられ、また鍍金が施してあったとみられる箇所がわずかに残っています。

双身毘沙門天像は全国的にも例が少なく、中でも銅造の作例はきわめて少ない中、本像はその点においても希少性が高いと考えられます。本像は図像学的価値、宗教史的価値および作例としても希少性を併せ持つ文化財であり、地域の歴史と文化を理解する上でも重要な資料といえることから、令和８年８月 19 日に多治見市有形文化財に指定されました。

参照：『特別展　毘沙門天―北方鎮護の神―』（奈良国立博物館展示図録・2020 年）・浅湫毅「岐阜・長福寺の銅造双身毘沙門天立像」（『京都国立博物館　学叢』42・2020 年）

資料の紹介

貸出セット







主に学校向けにご用意している「貸出セット」。そのひとつに、戦時下の地域の資料があります。鉄兜や国民服のほか、千人針の腹巻、防空頭巾などの貸出を行っています。小学３年生から４年生の国語の授業や小学６年生の歴史の授業等、幅広くご利用いただけます。国語の教科書にある物語の登場人物が身に着けているものを実際に手に取ってご覧いただけます。ぜひご活用ください。



多治見市天然記念物 北小木のホタル

ゲンジボタル

今年のゲンジボタルの観測日における観測数（2,197 匹）は昨年（3,377 匹）の約 0.65 倍となりました。６月１日が上流のピークで、下流は６月 11 日がピークでした。大量発生時期が上流と下流と異なるという結果となり、また、上流域のホタルの発生数が減少し、下流域のホタル生息数はそれほど減少がみられませんでした。

昨年のカワニナ生息数調査において前年度比３割減であったため、今年のホタルは減少することが予測されましたが、結果はその見込みどおりとなりました。ホタルは３年～４年周期で大量発生時期があり、引き続き、長期的に調査を進めていくことが必要です。

ヘイケボタル

今年のヘイケボタルは２日間の調査日のうち、１日が雨天により中止となったこともあり、確認できた個体は少数で、すべての地点で、昨年に比べ減少しました。観測対象の水田を含め、この時期は水田全体の水が切ってあることから、ヘイケボタルやその餌となるモノアラ貝などが生息できる環境がなくなってきている状況です。ヘイケボタルが生息する水場が確保できない限り、今後の発生数も少ないと予想されます。生息地が周辺の水路等の水があるところに移ってきていると思われることから、今後も北小木町と協力しながら、ヘイケボタルの生息しやすい環境を整え保護に努めていきたいと考えています。

多治見市史編さん事業 学校資料調査

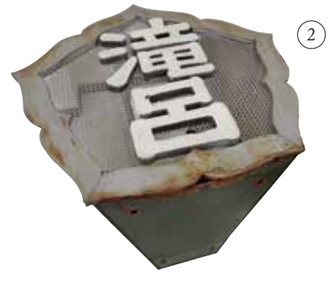




令和 22 年度の多治見市制 100 周年に向けて取り組んでいる多治見市史編さん事業のひとつとして、市内の小学校の資料調査を順次行っています。市史編さん委員の先生にご指導をいただきながら調査を進めています。

多治見市教育委員会 寄贈品の紹介









①②　滝呂区より、法被をはじめとする滝呂地域の祭事で使用していた資料の他、滝呂小学校で使われていたスピーカー等、地域の貴重な民俗資料を寄贈いただきました。大切に保管・活用させていただきます。

③④　市内酒造会社より、昭和のはじめ頃を中心とした酒造関連資料を寄贈いただきました。尾張屋合資会社時代の徳利や、戦中に製造されていた㊀印の粕取焼酎ラベルなど、これまで収集のできていなかった多治見地域の酒造関連資料です。寄贈品の一部は企画展「酒を造る」で紹介しています。ぜひご覧ください。